

平成 29 年 8 月 7 日 臨時教育委員会会議録 小学校（道徳）

遠藤教育長	<p>それでは、これより平成 29 年第 4 回臨時教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他、4 人の委員が出席しているので、この会議は成立する。</p>
遠藤教育長	<p>はじめに、会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員は、会議規則第 14 条第 2 項の規定により、小屋松委員と出川委員とする。</p> <p>それでは、本日の会議の内容について、配布している会議日程のとおりである。何か、意見はないか。</p>
遠藤教育長	<p>ないようなので「日程第 1 議第 45 号 平成 30 年度使用小学校教科用図書 特別の教科 道徳 の採択について」に入る。</p> <p>本日の教科書採択の方法については 3 つほど、方法が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 話し合いによる方法2. 挙手による方法3. 無記名での投票による方法 <p>などが考えられるが、どの方法にするか、意見はないか。</p>
森委員	<p>前回の採択において無記名の投票を行った。その理由は、投票後の数の確認が自由にできる等それなりの理由があったかと思う。今回の採択についても同様の方法をとるべきではないかと思う。</p>
遠藤教育長	<p>森委員から意見があったが、異議はないか。</p> <p>(異議なし。)</p>
遠藤教育長	<p>それでは異議なしと認め、今回の教科書採択の方法については、無記名による投票とする。それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
塩津指導課長	<p>議第 45 号「平成 30 年度使用小学校教科用図書 特別の教科 道徳 の採択について」よろしくお願いします。</p> <p>それでは、選定委員会から吉井選定委員長に報告をお願いします。</p>
吉井選定委員長	<p>それでは、説明する。</p> <p>選定委員会では、日本文教出版の教科書を推薦する。推薦理由として、主なものを 3 点申し上げる。</p> <p>1 点目は、「道徳ノート」において、教科書と配列や問いをそろえてあり、学びやすいよう配慮されている。また、全ページに友達の</p>

	<p>考えを書く欄が設けてあり、多様な考えに触れ自分の考えと比較して学ぶことができ、多面的・多角的に考えるためによく工夫されている、という点である。</p> <p>2 点目は、教材の最後には、中心発問と児童が生活の中に学習したことを生かすためのヒントが書いてあり、学習内容を焦点化し、主体的に学習に取り組みやすいようとても配慮されている、という点である。</p> <p>3 点目は、いじめ問題への対応に関する教材が「心のベンチ」の中にコラムとして掲載されている。道徳の教材と特別活動での話し合いから実践を問うものになっていて、道徳的实践へつながるよう、よく工夫されている、という点である。</p> <p>以上のことから、日本文教出版の教科書を、本市の児童が使用する教科書として最適であると考え、推薦する。</p>
遠藤教育長	<p>今説明があったが、前回の協議を踏まえて、意見はないか。</p>
森委員	<p>今回新たな教科書ということで教科書づくりがされたと思う。いずれの教科書も、大変な意気込みでつくられたのが伺えるような、立派な教科書だった。最終的な案として、日本文教出版の推薦があった。道徳と国語の違いは、国語は文章を読んで作者の意図を読み取るが、道徳は読んで、登場人物がどう考えたかだけではなく、実際に行動に移し、実践するということが必要である。例えば、挨拶はしなければいけないというのは当然のことだが、それを日々の生活で実践できるようにするのが、重要だと思う。実践という意味を含めて推薦があったことは評価できると思う。</p> <p>日本文教出版の教科書に限らないことだが、いろんな考えや価値観をもった子どもがいて、意見をやり取りする中で気づき、そこから他者の存在価値を認め、行動していくというようなことが、道徳の大事な側面ではないかと思う。いろんな考えに気づき、いろんな意見交換をすることは大事だと思うが、教科書の問いかけの仕方が丁寧すぎると、逆に特定の意見に集約されてしまい、多様な意見が出にくいという面もあるのではないかと思う。教科書を使う現場の先生方が、そのような点をしっかり受け止めて、一つの答えに集約されないように、様々な考え、さらに個性を引き出して、充実した道徳の授業をしてもらえるように願う。</p>
泉委員	<p>道徳の授業では必ずいじめ問題が取り上げられると思われるが、日本文教出版の教科書は、いじめの問題を「いじめる、いじめられ</p>

小屋松委員	<p>る」という単純な構造ではなく、クラス全体の構造として捉えていた。全てのクラスで、全員でいじめについて考える視点をもてるのではないかと感じた。</p> <p>教科書を読ませていただき、私自身がそれぞれの問いかけに対してきちんと答えられるかという自問自答をしながら読ませていただいた。道徳が教科になり、おそらく担任の先生が道徳教育を担当されるのだろうが、大変だろうと思う。先生自身も自分の価値観、道徳観がどれほど定まっておられるか分からない中で、子供たちと接していかれるという面で不安があるかと思った。しかし、今回見せていただいた教科書はそういったところまで、きめ細やかな配慮がされており、先生としてはこの教科書は使いやすいだろうという印象をもった。ただ今後、教科として評価の対象になっていくときに、森委員のご意見にもあったように、あまりにも偏った方向に行かないように、配慮していただくということは必要と思うので、今後ともよろしく願いしたい。</p>
出川委員	<p>私はこの教科書について、多面的で多角的な見方ができるという特徴があると思った。しかし一方では、あらゆる価値観を認めたり、理解したりすることはとても難しいことだと思う。友達の意見を聞いて「そうなんだ」というところで終わっていたら、道徳教育をする意味は無いのではないかと思う。違う人の意見を認めたくないという子供に、どういう風にアプローチしていくのかというところで、教員の道徳教育の進め方が大事になってくると思う。いい素材であればあるほど、指導の仕方が大事になってくるだろうと思う。</p>
遠藤教育長	<p>いろいろな意見が出たが、それを踏まえて最もよいと思われる教科書に投票していただきたい。</p> <p>投票結果を報告する。日本文教出版，5 票。</p> <p>この投票結果から，日本文教出版の教科書を採択することに決定する。</p> <p>これで，平成 29 年第 4 回臨時教育委員会会議を閉会する。</p>